

松前家の初代藩主、松前慶広がこの地に築城したのは江戸幕府が開かれて間もない1606（慶長11）年。火災と修築を経て1854（安政元）年に建て替え、箱館戦争では旧幕府軍と官軍の戦場になった。維新後の1875（明治8）年に開拓使が主な建物や石垣を取り壊し、堀も埋めた。残った3階建て天守閣も1949（昭和24）年、町役場の火災の延焼で焼失。現在の天守閣は町民や道内の小中高校生らの寄付金で60年、鉄筋コンクリートで再建した。

同町は76年に史跡福山城保存管理計画を策定し、本州から職人を招いて石垣や塀などの復元を進めている。京都の宮大工の手で復元される「天神坂門」は今年12月に完成の予定。岐阜の左官職人による土塀工事は土にわらくずを切り込み、自然乾燥させる工程を6回繰り返すもので、下塗りが終わったばかりだ。

天守閣について同町教委の久保泰文化財課長は「今の天守は再建したもので、復元ではない。鉄筋コンクリートの寿命は意外に短い、しっかりとした木造なら数百年に一度の補修で長持ちする。工事中の姿を積極的に見せることで教育にもつながる」と次の世代に復元を託す。

一方、寺町は江戸時代、15もの寺や神社があった。焼失や合併、町内外への移転で減少したが、1842（天保13）年に建築された国の重要文化財の龍雲院、山門が国の重文指定の法源寺など貴重な寺院建築が現存する。

私と遺産

往時の景観復活に信念

「松前歴史まち商店街組合」の組合長を務め、商店街で薬局を経営する西村吉之助さん（73）は札幌医科大学付属病院薬剤部に勤務したあと、1955年に古里に戻った。再建した松前城について「立派になったが、城の堀に埋められた土を掘り返して水を入れ、石垣も整備すると城が、ぐっと引き立つ」と今後の「復元」に思いをはせる。

商店街も「昔のような瓦の街並みを再現したい。カラフルな看板はだめです。まちづくり協定はみんなの意思としてまとまった」と話す。さらに電線の地下埋設、それが不可能ならば、電柱を商店街の後ろに移設し、表通りから目立たないように景観を改善することも胸の中で温めている。

「家並みを整えるだけでなく、小さなイベントを催すなどして観光客がいつも訪れるような、魅力のある商店街にしたい」と力を込めた。

まちづくりと遺産

建て替えに統一基準

松前町は93年、道の戦略プロジェクト「歴史を生かす街並み整備モデル地区」に指定された。城を中心とした約100ヘクタールを▽城を含む文化財保存ゾーン▽松前藩屋敷や散策路を整備する高台公園ゾーン▽北前船が接岸した旧波止場周辺の海岸ゾーン▽本町中央部・商店街ゾーンに4区分し、特色ある町作りを進める。

同町都市整備課の藤崎秀人課長は「松前城は町の宝。歴史を後世に伝えながら、町の顔づくりに役立つ

てたい」と説明する。

モデル地区の具体的な計画づくりには行政だけでなく、町民が主体的にかかわった。地区指定の93年に「歴史を生かす街づくり推進協議会」が発足して論議を重ね、97年、協議会が発展的に解消し、商店街の商店主らによる「松前歴史まち商店街組合」（組合員62人）が設立された。

商店街は延長400メートルにわたって幅6メートルの道道を14・5メートルに広げ、両側に歩道を整える計画。4月施行の「まちづくり協定」に沿い、商店が建て直す際には（1）歩道境界から50センチ離す（2）建物の色は「白」を基調（3）金属成形の瓦を使う（4）自動販売機を店の前面に置かない、などの統一基準を同組合が設けた。着工前に審査を受ける決まりだ。

武家屋敷をほつとさせ町営住宅もお目見えし、まちづくりは松前城の歴史と共に進んでいる。

